



# 委員会報告

## 先進地などへ視察調査

### 総務常任委員会

#### 大山・菁莪地域の活性化推進について

7月28日 ————— 企画政策課

市では、第5次総合振興計画基本構想の重点プロジェクトとして、「地域活性化プロジェクト」を新たに位置づけ、今年度から、大山地域・菁莪地域における地域活動の活性化と生活利便性の向上を図り、定住人口の維持・確保および市内外からの交流人口の増加を目指しています。

両地域については、少子高齢化、小・中学校の児童生徒数の減少、買物難民、地域活動の人出不足、農地の荒廃などの共通の課題があります。

このような状況の中、外部の新たな視点から地域の資源や魅力を発見するという意味において、大学との連携による「大山・菁莪地域活性化事業」に期待します。

また、市民自らが地域課題の解決策を考え、実践するノウハウを身につける「実践的地域活性化人材育成研修」にも期待するところです。

一時的な活性化を目指すのではなく、両地域の明確な将来像を描き、市民・大学・行政・議会が役割を分担しながら、継続して地域の活性化に取り組んでいくことが重要であると考えます。



企画政策課から説明を受ける

### 産業建設常任委員会

#### 商業施設を利用した地域の活性化について

7月14日 ————— 深谷市



道の駅 はなぞの

深谷市の「道の駅はなぞの」内にある地域物産館アルエットは、8年度から9年度にかけて、農業農村活性化農業構造改善事業として建設されたものです。

地域で生産された各種物産の紹介、地域の祭事に使用される山車の展示、食の体験などを行い、生産者と地域住民、物産館を訪れる都市部住民などの交流の場になっています。

29年5月、施設の老朽化・利用者の減少から、ふっかちゃんミュージアムを新設するなど時代に即したものにリニューアルオープンしました。

このことから物産館のみならず、道の駅のほかの施設の来場者も増加に転じ、賑わいを見せています。

白岡市においても、味彩センター、物産館などの商業施設があるものの、売り上げ、来客数ともに伸び悩んでいる状況です。

「道の駅はなぞの」の取組である、体験型農業施設の設置、6次産業化取組への支援、イベントなどによる集客力の強化など当市の実情に即した取組を取り入れ、商業施設の発展とともに地域の活性化に結び付けていくことが可能と考えます。